

第6学年〇組 「特別の教科 道徳」学習指導案

令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時
授業者

1 主題名 向き合い、見つける自分の気持ち【内容項目 A 正直、誠実】

2 ねらい 手品師の自分の夢を叶えたいという気持ちも、男の子との約束を守りたいという気持ちも、どちらも自分の気持ちに偽りのない事実である。これらの手品師の心の動きについて話し合う学習を通して、「誠実」な生き方について考え、誠実に明るい心で生活しようとする態度を育てる。

教材名 手品師 (東京書籍 「新しいどうとく」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目「偽りなく真面目に真心を込めて、明るい心で楽しく生活すること。」に関係するものである。内容項目は、中学校の内容項目[自主、自律、自由と責任]の「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」につながっていく。今回の内容項目は年間1回行う計画になっている。

主人公である手品師は、友人から「大きな劇場で、はなやかに手品をする」というチャンスをもたらしたが、手品師は小さな男の子の前でその日に手品を披露することを約束していた。

誠実とは、私利私欲を交えずに真心をもって人や物ごとに対することである。

自信をもって、自分らしく明るく生きるためには、自分自身に対して誠実であり続けることが大切である。しかし、時には迷うことや悩むこともたくさんある。相手のことや自分自身のこと、多角的な価値観があるからこそ迷うことである。それらの価値観に対して、真剣に向き合っているからこそ、迷いはより深くなることもある。その迷いこそが「誠実」であり、そこで見つけた自分自身の心の在り方こそが誠実な答えなのではないかと考える。「誠実」とは何かを考え、自分の誠実な心の在り方を追求していくことこそが自己マスターの育成に繋がると考える。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、共に協力し合いながら、運動会や日々の生活に取り組んできた。運動会の学年リレーでは、なかなかクラスが同じ方向を向かず、悩む児童もいた。しかし、その思いをクラスに対して話すことで、リレーで全員が同じ気持ちで熱くなりたいと練習に取り組んでいる様子が見えた。それは、リレー実行委員のみんなで頑張りたいという誠実な気持ちに対し、それを受け止め、その気持ちに答えたいというクラスの誠実な気持ちの重なりだったといえる。しかし、書写の感想や日ごろの生活を見ていると、周囲の目を気にしたり、自分に自信がもてない面もあり、自分自身の意見をはっきり伝えられなかったり、自分自身の行動や言動に自信をもって活動を積極的に行えていないように思える場面も少なくはない。

道徳科の授業においては、他者との話し合いを通して、新たな気づきや自己の考えを深めようとする様子も見られる。本時を通して、児童の明るい未来を築くために、自分はどんな生き方をしていけばよいかということ「誠実な生き方」というテーマを通して考えさせることで自己マスターの育成を図りたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、手品師が男の子との約束を守ることや男の子を想う気持ちも、大劇場で夢を叶えることもどれも偽りのない気持ちだからこそ迷っている。その手品師の心の揺れを通して誠実な生き方とは何かを考える話である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

○ 手品師の誠実さ

大劇場と男の子の間で迷う手品師に共感させ、手品師の誠実さについて考えを深める。

4 令和元年度の成果と課題を受けて

(1) 昨年度児童が取り組んできたこと

本児童は昨年度、道徳科の授業において、①中心発問に対する自分の考え②授業を通して考えたこと・やっていきたいことを中心にノートをとったり、意図的な学習形態で多様な考えにふれさせ自分の考えを深めたりすることに取り組んでいた。

今年度は「Listen&Talk」の視点に基づき、自分の考えをしっかりともち、話し合うことを大切にし、A、B、C、D、E、Fという視点を通して、Gという視点に気付かせたいということに重点を置き授業に取り組んできた。本授業でも、自分の思いを、多面的、多角的に重ね合わせ児童の考えが深まるような授業展開を心がけたい。

(2) 昨年度ご指導いただいたこと

私が昨年度、指導者の先生よりご指導いただいたことは、

- ① 行為を支える動機を考えることが道徳である。
- ② 児童理解が効果的な意図的な指名につながる。

昨年度の5年生の授業研究で、指導者の先生よりご指導いただいたことは、

- ① 発問によって児童の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出される。
- ② さまざまな視点から考えるために、視点移動が重要である。

以上のことを意識して授業展開をしていき、ねらいとする道徳的価値に迫っていきたい。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の心の動き	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 教材への関心を高める。 ○誠実な人ってどんな人ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・まじめな人 ・うそをつかない人 ・しっかりした人 	<ul style="list-style-type: none"> ・誠実の既存のイメージを明確にさせる。 ・本時はこの誠実の価値観をもとに話し合いが進むので、誠実とは何かをしっかりとおさえる。

<p>展開</p>	<p>2 教材を読み、話し合う。</p> <p>(1) 男の子のもとに行った手品師は誠実ですか。</p> <p>○男の子のもとに行った手品師の気持ち</p> <p>(2) 誠実と思いきれないのはなぜですか。</p> <p>(誠実と言えないのはなぜですか)</p> <p>○大劇場に行きたい手品師の気持ち</p> <p>○手品師は簡単に男の子の方に行くことを選んだのですか。</p> <p>(3) 大劇場と男の子を迷っていたこの手品師は誠実ですか。</p> <p>(4) 手品師は男の子のもとへ向かったことを後悔していますか。</p> <p>(なんで男の子のもとへ向かおうと思ったのですか)</p> <p>3 自己をみつめる</p> <p>・誠実な人とはどのような人ですか。</p>	<p>誠実</p> <p>男の子のもとに行ったから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそう ・約束したから ・これで元気づけられるなら行くべきと思ったから ・行かなかったら男の子が悲しんでしまう <p>誠実と思いきれない</p> <p>誠実ではない</p> <p>大劇場に行くのが夢だったから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと夢だったから ・夢を叶えたいから ・お金がたくさん手に入るから ・有名になりたいから ・せっかく友達が電話をくれたのに申し訳ないから <ul style="list-style-type: none"> ・真剣に考えている ・夢も男の子のことも友人のことも考えた ・両方にしっかり向き合っている ・目の前一人の子を幸せにできない人が、みんなを幸せにすることは出来ない ・明るい未来や希望を見せてあげたい ・男の子を放っておけない ・自分自身のことも大切にできるし、それと同じように周りの人のことも考えられること ・自分自身の信念を貫き通せるが、優しさも持ち合わせる ・人のために悩むことができるような優しさをもった生き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・手品師が誠実かどうか考えさせながら聞かせる。 <p>☆手品師の誠実さについて、自分の考えを伝え合い、様々な見方や立場から考えている。(発言・つぶやき・ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらの気持ちにも共感させたい。 <p>☆「Listen&Talk」を取り入れる。</p> <p>→すぐに自分の夢を諦めたり、約束を無碍にしたりするのではなく、迷いながら判断をした。そこに価値を求めたい。</p> <p>☆手品師の誠実さから学んだことについて考え、自分との関わりで考えている。(ノート・発表)</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話(振り返り)を聞く</p>		

6 他の教育活動との関連

事前指導	週1回の道徳科の授業を確実に実践し、道徳性を養う。
特別の教科道徳	教材名 「手品師」 手品師の自分の夢を叶えたいという気持ちも、男の子との約束を守りたいという気持ちは、どちらも自分の気持ちに偽りのない事実である。これらの手品師の心の動きについて話し合う学習を通して、「誠実」な生き方について考え、誠実に明るい心で生活しようとする態度を育てる。
事後指導	道徳コーナーに意見を掲示するとともに、コメントをノートに書き意欲を高める。
家庭との連携	本時の授業記録や、中心発問、授業後の児童の感想などを stuDy 通信として家庭に配布し家庭と学校で連携を図り道徳性を高める。

7 板書計画



8 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・手品師の誠実さについて、友達の意見を聞きながら、考えを深めている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・手品師の誠実さをもとに、自分の理想とする未来像と重ね合わせて考えている。